

(学-3) 自学自習の記入の必要がある科目：本科学修及び専攻科の講義演習（授業内容部分に罫線なし）

| | | | | |
|--|--|-----------------|------------------------------|--|
| 科目名 | 物質工学ゼミナール III | 英語科目名 | Seminar III | |
| 開講年度・学期 | 平成23年度通年 | 対象学科・専攻・学年 | 専攻科物質工学コース1年 | |
| 授業形態 | 演習 | 必修 or 選択 | 必修 | |
| 単位数 | 2単位 | 単位種類 | 学修単位30h+15h | |
| 担当教員 | 原則として特別研究の指導教官 | 居室（もしくは所属） | 電気・物質棟3,4階・物質工学科実験棟1階・専攻科棟4F | |
| 電話 | | E-mail | | |
| 授業の達成目標 | 授業達成目標との対応 | | | |
| | 小山高専の教育方針 | 学習・教育目標 (JABEE) | JABEE 基準要件 | |
| 1. 速報、原著論文、総説、アブストラクト等の区別ができ、その役割を説明できること。 | 3 | D-2 | g | |
| 2. 専門語彙を300語以上増やすこと。 | 3 | D-2 | g | |
| 3. 主語、述語、目的語、補語の区別、および品詞の区別がつくこと。 | 3 | D-2 | g | |
| 4. 英和辞典を自分で引いて、発音記号を基礎して発音ができること。 | 3 | D-2 | g | |
| 5. 現在 (present)、過去 (past)、未来 (future) の時制 (tense) を区別できること。 | 3 | D-2 | g | |
| 6. 論理的な日本語訳ができること。 | 3 | D-2 | g | |
| 各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法 | | | | |
| 達成目標 1~6: スクールワーク(音読、翻訳、意味の説明) 70%、ホームワーク(予習復習のノートの内容)30% | | | | |
| 評価方法 | | | | |
| 関連内容に対する理解度または運用能力が60%以上の成績で達成とする。 | | | | |
| 授業内容 | 授業内容に対する自学自習項目 | | 自学自習時間 | |
| 指導教官のもとで選定した特定分野やテーマに関する外国語文献の音読、翻訳を行い、その内容を説明させる。 1. 受講した学生が割り当てられたパラグラフ毎、あるいはセンテンス毎に音読、翻訳を行い、その内容を説明する。 | 予習—少なくとも次回の授業で進むと考えられる範囲を3回以上音読し、分からない単語の意味とその発音記号を単語ノートに記録する。日本語訳をノートに書き、論理的な文章になるまで手 | | | |

| | | |
|--|--|--------------------|
| <p>2. 学生が行った音読、翻訳の誤りを担当教員が訂正し、内容を分かりやすく講義する。</p> <p>3. 読んだ英文に関連した専門の内容について担当教員と議論する。</p> <p>授業－各自の分担の箇所を音読、翻訳し、意味を説明する。他者の音読、翻訳、説明にも耳を傾け、自分が予習してきた内容と比較する。教官の説明によって自分の誤りを訂正し、疑問点があれば教官に質問する。</p> | <p>直しをする。</p> <p>復習－授業での内容を反復学習し、新しく学習した専門用語を記憶する。</p> <p>授業で進んだ部分の音読を少なくとも3回行う。</p> | |
| | | <p>自学自習時間合計 15</p> |
| <p>キーワード</p> | <p>英語、専門用語、音読、読解</p> | |
| <p>教科書</p> | <p>各担当教官が選択</p> | |
| <p>参考書</p> | <p>中村喜一郎、青柳忠克著「やさしい化学英語」オーム社（1989）</p> <p>湊宏著「化学英語」東京化学同人（1978）</p> <p>千原秀昭ら「化学英語の活用辞典」化学同人（1987）</p> <p>玉虫伶太ら著「エッセンシャル化学辞典」東京化学同人（1999）</p> | |
| <p>カリキュラム中の位置づけ</p> | | |
| <p>前年度までの関連科目</p> | <p>化学英語、ゼミナールI、応用英語I,II</p> | |
| <p>現学年の関連科目</p> | <p>ゼミナールII</p> | |
| <p>次年度以降の関連科目</p> | <p>なし</p> | |
| <p>連絡事項</p> | | |
| <p>理解が困難な場合は、その都度相談に応じる。予習、復習は確実にを行うこと。</p> | | |
| <p>シラバス作成年月日</p> | <p>平成 23 年 2 月 21 日</p> | |